# Field of Invaluable Learning 2020

**Produced by LV College!**

Learning Value

# CONTENTS

**発表団体インタビュー** 4

1. 東邦大学 東邦Ecolution
2. 東京都市大学 夢キャンコミュニケーター
3. 常磐大学 TSSボランティアTRICOLOR
4. 中部大学 コモンズサポーター
5. 亜細亜大学 新入生研修委員会
6. 日本工業大学 Formula Friends of N.I.T.

**教職員インタビュー** 16

1. 東邦大学　竹内彩乃 氏
2. 中部大学　辻孝章氏
3. 亜細亜大学　浅野麗氏

**当日アンケート報告** 20

**開催を終えて** 22

株式会社ラーニングバリュー代表取締役　安田仁秀

## Fil2020
## 応援したい団体　第1位

# 東邦大学　東邦Ecolution

## 発表を聞いた後に自分が思ったことを班の人たちと共有するということが貴重な体験となった

――まずはFil2020を終えて率直な感想をどうぞ！

**斉藤** この度、初参加で1番に発表させていただき、そして応援したい団体第1位に選んでいただき大変うれしい限りです。私たちがやってきた活動の大変さをうまく発表することができたのではないかと思いました。

**神家満** 今まで自分たちがやってきた活動がエゴだったのではないかと少し思っていたのですが、今回のFil2020を通して周りの人たちに評価していただいたことで自分たちの活動に意味があったと感じました。

――こういった場があると知ってどうして発表しようと思ったのですか？

**斉藤** 授業以外に人前で発表したことがなくて、この機会に一度挑戦してみようと思ったからです。

## 活動がただのエゴではないか、自己満ではないかを常に考え最善の選択をした

――Filの発表の準備をする中で、改めてご自身やご自身の活動について感じたこと、気づきなどはありましたか？

**神家満** 2点あります。1点目は、男女比は大事だということです。理由は、男性的な考えや女性的な考えに違いがあり、最終的に男女比の高い割合に話が流れやすくなっている傾向があると感じたためです。2点目は、この活動がただの自分のエゴではないか、自己満ではないかを常に考え最善の選択をしていたことです。

## 課題をどのように解決したかが重要で、それを特に伝えたかった

――Fil当日みなさんが一番伝えたかったことはどんなことでしたか？

**斉藤** 私たちがやってきた活動の中で“提案がなかなか通らなくて苦戦した”ということを伝えたかったです。私たちにとってその課題をどのように解決したかが重要で、それを特に伝えたかったからです。

――それは伝わったと思いますか？

**斉藤** 伝わったと思います。いただいたメッセージカードのコメントを読んでそう思いました。

――参加者からもらったメッセージカードの内容はどんなものでしたか？

**斉藤** どれも温かい言葉ばかりでした。特に、「私も手伝えることがあったら手伝いたい」というメッセージがすごくうれしかったです。本当に大変な活動だったので、救いの手を差し伸べてくれるようなコメントにはグッときました。

――Filに参加して、一番良かった！と思うところを教えてください

**斉藤** 発表したという経験ももちろん良かったのですが、特に良いと感じたのがグループでのワークショップでした。発表を聞いた後に、自分が思ったことを班の人たちと共有するという経験が今までなかったので貴重な体験となりました。

## みんな悩んでいることは同じ

――他大学の発表を聞いて感じたことはどのようなことですか？

**斉藤** 大学や学部学科が違うと活動内容がすごく異なっていたので面白く感じました。みんな悩んでることは同じということに驚きを感じたし、共感を持てました。

――Filでは参加者全員がともに学び・学びあうことを大切にしています。グループ内でお感じになった「学びあいの価値」があれば教えてください

**斉藤** メンバーのやる気をどのようにしたら上げられるのか、現時点での状況をどうしたら継続させられるのかなどの問題を、他大学の人たちと共有することで、お互いに学ぶことができました。

――こういった活動を支援したいと思っている教職員やオトナの人にアドバイスやコメントをどうぞ！

**斉藤** とても有難いことだと思っています。教職員やオトナの方々のおかげで、学生だけでは進めていけない事業も進めていくことができるからです。

――活動支援金は何に使う予定ですか？

**斉藤** 活動費として使わせてもらいます。

――自分の団体以外で一番「すごい！」と感じた団体は？

**斉藤** 常磐大学ですね。メンバーのモチベーションを向上させるにはどのようにしたら良いのかというのを団体内で試行錯誤して考えて、それを解決へと導いていたのですごいと感じました。

## 会社とはどういう場所なのかや、やりがいなどを聞けたので貴重な体験となった

――団体活動がその他の学生生活や研究活動へ役立ったこと、広がりを感じたことはありますか？

**斉藤** 就職に向けての意識・行動につながったのではないかと思いました。理由は、企業に環境活動の提案をすることで、自分が普段見ていた企業の様子を違う角度から見ることができ、新たな発見を得ることができたからです。そして、企業の社長さんから会社とはどういう場所なのかや、やりがいなどを聞けたのでとても貴重な体験となりました。

## Fil2020
## 応援したい団体　第2位

# 東京都市大学
# 夢キャンコミュニケーター

## 他の人の成功や失敗などの経験は自分にとっても今後につながる

――まずはFil2020を終えて率直な感想をどうぞ！

**岩佐** 初めてFilに参加させていただきました。どのような雰囲気で進んでいくのか正直最初は緊張していましたが、「記者会見」があったおかげでグループが一緒になった方とも意見交換がしやすくなり良かったです。夢キャンは子どもが対象だったり大学を知ってもらうための活動がメインのため、団体によって様々な活動があり、新鮮な気持ちで聞くことができました。今後活動していく中で参考にさせていただきたいなと思う内容もあったので、良い刺激をもらえました。

**杉野** 参加して良かったと思いました。今の自分たちには足りないところや、今後取り入れていきたいことを学ぶことができ、次に繋げられると思ったからです。

――こういった場があると知ってどうして発表しようと思ったのですか？

**浅田** 日々の私たちの活動について知っていただきたかったということと、その中で発生した問題や課題を共有して、新しい意見を取り入れたいと思ったためです。グループワークを行うということで、他大学の方々の、自分たちとは違う方向からの解決策を得られるとも考えました。

――Filの発表準備をする中で、改めてご自身やご自身の活動について感じたこと、気づきなどはありましたか？

**佐藤** パワーポイントを作り上げる時に修正ポイントを話し合っていく中で、自分が思っていることを相手にわかりやすく伝えることができそうでできていなかったと気づきました。

**浅田** 発表の準備を行う際に、行なった企画の準備から実施までの過程を一から見直しました。これにより、初めは気づかなかったことに気づくことができ、新しいアイディアも考えることができました。

## 私たちの活動目標を達成するには、子どもたちに経験・知識として残してもらうことが重要

――Fil当日みなさんが一番伝えたかったことはどんなことでしたか？

**浅田**「子どもの主体性」です。私たちの活動目標を達成するには、ただ子どもに教える、モノを作ってもらうのではなく、参加してくれた子どもたちに経験・知識として残してもらうことが重要だと考えており、そのためには子どもたちが言われたことだけをするのではなく、子ども自身で考えながら行動することが必要だと思ったからです。

**橋本** 一年生で企画・立案・実行を行なったことです。入学して間もない自分たち一年生が行なった企画に対して他の人たちがどのような意見を持つか気になったからです。

――参加者からもらったメッセージカードの内容はどんなものでしたか？

**岩佐・杉野** いただいたメッセージを読むと伝えたかった内容が伝わっていることが確認でき、意見を出し合いながら発表準備を進めてきて良かったと思いました。また、夢キャンコミュニケーターとはどのような活動をしているのかも理解していただけているメッセージも沢山あって嬉しかったです。そして、私たちが当たり前と思っていたことが第三者の視点から見ると夢キャンの良い特徴だと改めて気づくことができるメッセージもありました。褒めていただいた点は、今後も継続して活動していきたいです。

――Filに参加して、一番良かった！と思うところを教えてください

**杉野** 他大学の活動を知ることができました。今後の活動で取り入れていくことで、より良いものを作れると思いました。

## 団体によって様々なシステムや考え方があり学ぶ点があった

――他大学の発表を聞いて感じたことはどのようなことですか？

**岩佐** 今後私たちの活動に取り入れたいと思う内容がありました。また、私たちが行なっているのとは違う活動を知れると同時に、活動を行なう中でどのように団体を運営していくのか、団体によって様々なシステムや考え方があり、学ぶ点もいくつかありました。

――Filへの参加を通じて、新たにチャレンジしたいことなどが増えましたか？

**浅田・岩佐** 企業と協力して企画を実施している団体の発表を聞いて、企業との活動に興味を持ちました。協力するまでには様々な問題があり簡単ではないとのことでしたが、地域に根差した内容で何か企画を立てられたらなと思っています。

## 自分以外の立場の人の意見を聴くことができた

――Filでは参加者全員がともに学び・学びあうことを大切にしています。グループ内でお感じになった「学びあいの価値」があれば教えてください

**佐藤** 発表を聴いただけではわからないことや、発表を聴いて考えたことをグループ内で交換することで、自分以外の立場の人の意見を聴くことができました。また、他団体でやっている取り組みをより詳しく聴き、自分の団体と照らし合わせて意見交換ができたことで、参考にするべきことがより明確に理解できたと思いました。

**橋本** 他の人の成功や失敗などの経験は、自分にとっても今後に繋がるので学びあいはとても重要だと感じました。

――こういった活動を支援したいと思っている教職員やオトナの人にアドバイスやコメントをどうぞ！

**浅田** ぜひ、できるだけ学生のやりたいように企画を実施できる環境を用意していただけたらなと思います。教職員の方々のチェックももちろん必要だと思いますが、大きな問題がなければ私たち学生の背中を押していただきたいです。

## 個々が目的をしっかりと持って活動することができる

――自分の団体以外で一番「すごい！」と感じた団体は？

**杉野** TSSボランティアTRICOLORさんです。学生の力で振り返りシートを作ることで個々が目的をしっかり持って活動することができると思いました。組織としても素晴らしい団体さんなので、今後見習っていきたいと思うと同時に、応援したいと思いました。

**佐藤** 東邦Ecolutionさんです。企業とのコラボ事業を始めて1年目で見事にコラボ事業ができたこと自体が素晴らしいと思いましたし、これからもそういった活動を広げていってほしいと思いました。

## 自分自身の勉強に対するモチベーションを上げることができるように

――団体活動がその他の学生生活や研究活動へ役立ったこと、広がりを感じたことはありますか？

**橋本** 子どもに対して様々なことを教えているので、人に説明するのがうまくなったと実感しています。

**佐藤** 私たち夢キャンコミュニケーターは、主に地域の子どもたちの「夢」に翼を与えるようなイベントを企画・運営することが主な活動内容です。夢キャンコミュニケーターに入ってから、先輩方がそれぞれの専門分野に関して企画したイベントを手伝っていくうちに、自分も専門分野に関するイベントを企画・実行したいと思うようになりました。そういう思いが芽生えたことで、自分自身の勉強に対するモチベーションを上げることができるようになりました。

## Fil2020
## 応援したい団体　第3位

# 常磐大学
# TSS (Tokiwa Student Staff)
# ボランティア
# TRICOLOR

## 課題と向き合う姿勢や課題解決へのプロセスを評価していただけた

――まずはFil2020を終えて率直な感想をどうぞ！

**大塚** まずは、応援したい団体3位に選んでいただき、ありがとうございました。私たちが伝えたかったことを伝えることができたのかなと思います。

**関口** 応援したい団体3位という結果をいただけたことはもちろんうれしかったのですが、それ以上に私たちの課題と向き合う姿勢やその課題解決へのプロセスについて評価していただけたことが本当にうれしかったです！ありがとうございました。

――こういった場があると知ってどうして発表しようと思ったのですか？

**関口** 私は昨年Filにオーディエンスとして参加しました。その時、他の学生団体の課題やその解決の仕方などを学んだり、活動を全力で行なっているからこその悩みや葛藤、喜び、熱い想いなどを知ることができたので、今年もみなさんと共有し、学びあい、そして私たちの成長に繋げたい！と思ったからです。

## メンバーへ活動に対する想いを伝える良い機会になった

――Filの発表の準備をする中で、改めてご自身やご自身の活動について感じたこと、気づきなどはありましたか？

**大塚** わずかではありますが、自分の成長を感じることができました。メンバーに活動の目的や意義について意識させることができているのか、PDCAサイクルは機能しているか、次世代の人材育成など、TRICOLORという団体の組織運営について改めて深く考えることができ、メンバーへ活動に対する想いを伝える良い機会になりました。

**関口** 活動を振り返って考えると、TSSボランティアTRICOLORは、メンバー同士が互いに良いところを認め合って学びあうことで、互いに成長できるチームだと思いました。Filの発表準備をしている時も、15分という短い発表時間の中でどうしたらみなさんに私たちの成長の道のりを伝えることができるのか、試行錯誤する日々でした。その時、メンバーから様々な視点をもらったことで自分自身の視野が広がり、より良い発表に繋がったと感じました。

## 課題に対してどのように向き合い、何を学んだのかということ

――Fil当日みなさんが一番伝えたかったことはどんなことでしたか？

**大塚** 「メンバーが活動の目的や意義を理解していない」というTRICOLORの課題に対して、私たちはどのように向き合い、何を学んだのかということです。

――それは伝わったと思いますか？

**関口** 少しは伝わったのかなと思いました。メッセージカードや投票用紙の中に、私たちの組織の課題について、私たちが向き合い、学び、成長することに対してのコメントが多々あったからです。

――参加者からもらったメッセージカードの内容はどんなものでしたか？

**関口** 振り返りだけでなく、活動の目的や意義についてやスケジュール意識の課題について、共感する方が多くいらっしゃったというのが印象深いです。また、発表についてもわかりやすかったというお声をいただき、最後まで試行錯誤してわかりやすく伝えるプレゼンテーションができて良かったです！

**大塚** 多くの参加者さんに振り返りの改善について興味を持っていただき、マネしたい！というメッセージをいただきました。私たちが努力したことがみなさんからお褒めいただきうれしかったです。

## TRICOLORが「できる」ボランティア活動を考える

――Filへの参加を通じて、新たにチャレンジしたいことなどが増えましたか？

**大塚** メンバーのスケジュール意識を向上させることです。作業工程表の改善や、先輩後輩の垣根を超えたメンバー同士の声の掛け合い、学びあいの姿勢でチーム全体のスケジュール意識を向上させていきたいです。

**関口** それと、ワークショップ型の勉強会を行いたいです。今の社会的課題を解決するために、私たちTRICOLORが「できる」ボランティア活動を考えるための勉強会づくりをしていきたいです。

――Filでは参加者全員がともに学び・学びあうことを大切にしています。グループ内でお感じになった「学びあいの価値」があれば教えてください

**大塚** 環境や活動内容が違うので様々な意見が出ました。なので多様な考え方を尊重し、自分の中に意見を落とし込むことができました。受動的ではなく、能動的な学びだから価値があるのだと思います。

**関口** Filでは発表を聞いて、自分の意見をフラットに話し合うことができます。
様々な視点に出会い、1つの物事について考えを深めることでより多くの気づきがあり、そこから団体や自身の成長に繋げていくきっかけを得るということが「学びあいの価値」なのではないかと思いました。

――団体活動がその他の学生生活や研究活動へ役立ったこと、広がりを感じたことはありますか？

**関口** TRICOLORの活動を通して沢山のオトナの方と出会いました。その関わりの中で、目標に向かって全力で楽しんでいる人、熱い想いをもって指導してくださる人など、様々なオトナの方と出会ったことで、自分にできること、やりたいことなど、自分のキャリアデザインについて少しずつ考えられるようになりました。残りの学生生活を楽しみながら成長し、地域のことを想い、活躍できるような人になれるよう頑張りたいです。

# 中部大学
# コモンズサポーター

## 自分が考えもしなかった意見を持つ人や、似たような内容でも自分とは異なる方面から物事を捉えている人などがいた

――まずはFil2020を終えて率直な感想をどうぞ！

**矢野** 参加して良かったと思いました！正直、発表の準備で大変なところもありましたが、それ以上に他の団体の方との交流など、得たものが大きくてとても楽しかったです。

――こういった場があると知ってどうして発表しようと思ったのですか？

**芝高** コモンズセンターの現状を同じ大学生の方に共有し、意見をいただくことで自分たちにはない新しい発見や、価値観を得られるのではないかと思い、参加しました。また、他の団体の発表を聞くことで参考になる点を取り入れていこうと思っていました。

### Filに参加したことにより、客観的に見つめ直し、気づかされたことをもとに今後の活動に臨む

――Filの発表の準備をする中で、改めてご自身やご自身の活動について感じたこと、気づきなどはありましたか？

**池田** 発表内容を考える時間は、改めてコモンズサポーターがどういった団体なのかを考え直す機会になったと感じています。自分たちの置かれた社会集団に慣れてしまうというのは怖いもので、これまで気にしていたことが当たり前になって、気にしなくなってしまうのです。発表の際に、入ってまだ半年の新人サポーターが4人参加していると言いましたが、たった半年の短い期間とはいえ、慣れてしまうと自分たちの所属しているコモンズサポーターとは何なのかを考えることが少なくなってしまいます。しかし、Filに参加したことにより客観的にコモンズサポーターを見つめ直し、そこから気づかされたことをもとに今後の活動に臨む機会を提供していただいたと思いました。

## いただいた意見をもとに自己成長に繋げようと

――Fil当日みなさんが一番伝えたかったことはどんなことでしたか？

**中島** コモンズサポーターの行なっている活動とそこでの課題です。理由は、サポーターのことを知ってもらった上で課題についてどのように対応していくべきか他団体の方に意見をいただこうと考えていたからです。いただいた意見をもとに今後のコモンズサポーター活動に活かし、自己成長に繋げようと思っていました。

――それは伝わったと思いますか？

**中島** 発表後のメッセージやわかちあいでコモンズセンターの施設のことについての質問や意見が多かったです。なので、あまり伝わっていなかったと感じました。それでも、良い意見もあったので今後の活動の参考にします！

――参加者からもらったメッセージカードの内容はどんなものでしたか？

**池田** 発表のために入念に準備をしていることが良く伝わったというメッセージをいくつかいただきました。その他にも、同じようなことに悩んでいる団体からは、お互い頑張ろうなどの励ましの言葉をいただきました。また、コモンズセンターという施設を学生が主体となって運営していることが珍しいとおっしゃってくださる方もいらっしゃいました。これらのメッセージカードはその日のうちに全て読み、自分たちの話した内容がしっかりみなさんに伝わったこと、理解してもらえたこと、そして私たちコモンズサポーターを応援してくださっていることが文面を読んで良く伝わりました。みなさんからこれだけの期待を寄せられていることを励みに、今後の活動にも全力で取り組んでいきたいと思います！

## 外から見た意見は大切

――Filに参加して一番良かった！と思うところを教えてください。

**矢野** 他の団体と情報交換ができたことです。それぞれの団体の解決策を話し合ったりして、どこも似たような問題で悩んでいることがわかりました。私たちの発表後に課題の解決策を教えてもらえて、外から見た意見って大切だな～と感じました！

――他大学の発表を聞いて感じたことはどのようなことですか？

**後藤** どの団体もすごいことをやっていながらも楽しく活動しており、素晴らしいなと思いました。特に東京都市大学夢キャンコミュニケーターのみなさまは、企画や運営を1年生だけで行なっていて、自分と同じ1年生とは思えなかったです。他の団体を見て自分に足りないものが何かわかった気がします。今後の活動に役立てていきたいです。

――Fil への参加を通じて、新たにチャレンジしたいことなどが増えましたか？

**芝高** 常磐大学さんのスケジュール徹底の方法は私たちコモンズサポーターの企画などの集まりに参考にさせていただきたいと思いました。また、私たちは2018年のFilで交流した大学を訪問して活動を見学させていただいたことがあります。今まで自分たちの活動で精いっぱいでなかなかできていませんでしたが、今回のFilを通して、これから再び交流の機会を設けたいと思います。

――Filでは参加者全員がともに学び・学びあうことを大切にしています。グループ内でお感じになった「学びあいの価値」があれば教えてください

**池田** 発表だけでは知ることができなかった詳しい内容や体験談を聞くことができました。また、発表前に記者会見をさせていただいたことにより、初対面だったみなさんとも気軽に話を進めることができました。今回のように5，6人の集団となって話し合うことで、私が考えもしなかった意見を持つ人や、似たような内容でも私とは異なる方面から物事を捉えている人がいて、自身の考えの幅を広げる面でもこの話し合いは「学びあいの価値」があったと思いました。

――自分の団体以外で一番「すごい！」と感じた団体は？

**芝高** 夢キャンコミュニケーターの方々です。入ったばかりの1年生だけで企画を行なっていくというのがすごいと思いました。上の学年の方は、アドバイスなどのサポートをどのくらいしているのか気になりました。また、他の団体と違い小さい子が対象で、その子たちに夢を与えたいというコンセプトも素敵だなと思いました。

## 計画的に物事を進めることの大切さを知った

――団体活動がその他の学生生活や研究活動へ役立ったこと、広がりを感じたことはありますか？

**中島** 今まで後先考えず行動していましたが、計画的に物事を進めることの大切さを知りました。勉強、バイト、サークル、遊び、やるべきこととやりたいことが山ほどあります。うまく両立させていかなければならないので、やることの優先順位をつけて一つずつ行なっていきました。だんだんうまく時間を使えるようになり、余裕ができました。また、コモンズサポーターの活動を通してどのようにしたら相手に伝わるのか考える機会が多いので、様々な人と関わることで伝える力がつきました。将来は教員になりたいので、伝える力が役に立つと思っています！

# 亜細亜大学

# 新入生研修委員会

## 他の大学の学生たちも色んなことに挑戦をしていることを知った

ーーまずはFil2020を終えて率直な感想をどうぞ！

**浅野** 私たちが運営している出会いの広場に関して知らない人が多い中で、どのように話したら伝わるのかと思っていましたが、他大学からのコメントで沢山の応援したいという声をいただいて、参加して良かったと思っています。他の大学の学生たちも色んなことに挑戦をしていることを知り、新しい発見、価値観を得ることができました！

ーーこういった場があると知ってどうして発表しようと思ったのですか？

**浅野** 自分たちの大学内ではほとんどの学生が知っているイベントですが、学区外では全く浸透されていないことであり、私たちの活動をもっと多くの方に知っていただきたいと思い、発表をしようと思いました。

## 多くの教職員の方々、先輩、仲間たちの支えがあった

ーーFilの発表の準備をする中で、改めてご自身やご自身の活動について感じたこと、気づきなどはありましたか？

**浅野** 新入生とリーダー、補助学生の人数比の差に驚いたというコメントを沢山いただき、改めて人手不足を感じました。しかし、これほどの人手不足でも出会いの広場を今まで成功させてこられたのは、多くの教職員の方々、先輩、仲間たちの支えがあったからだと気づくことができました。

ーーFil当日みなさんが一番伝えたかったことはどんなことでしたか？

**浅野** おそらく、他大学でも出会いの広場と似たようなイベントはあるかもしれません。しかし、ここまで新入生のことを考え、何をしたら新入生の不安を取り除き、今後の学生生活を楽しんでもらうことができるのか、そして、新入生をサポートする補助学生たちにも楽しんで活動をしてもらえるのかを考え抜いた出会いの広場の運営を、多くの方に伝えたかったです。

ーーそれは伝わったと思いますか？

**浅野** 伝わったと思います！メッセージカードを読ませていただき、出会いの広場に参加してみたかったというお言葉が沢山あったからです。

ーー参加者からもらったメッセージカードの内容はどんなものでしたか？

**浅野** メッセージカードの多くに、「自分たちの大学にも出会いの広場のような企画があったらもっとスムーズに大学生活を始められたかもしれない」、「こんなイベントがあることがうらやましい」などのメッセージが沢山ありました。このように受け取っていただき、とてもうれしいです。新入生のためにまだまだ改善していくべきことはありますが、新入生をサポートできているのかなとうれしく思い、この企画を運営できていることに誇りを感じます。

## 今後どのようにすればより良くなるのかアドバイスをいただけた

ーーFilに参加して一番良かった！と思うところを教えてください

**浅野** 今までは補助学生、新入生のアンケートをもとに改善するべき点を見つけてきましたが、今回Filに参加させていただき、多くの方から、今後どのようにすればより良くなるのかアドバイスをいただけたことが一番良かった！と思います。

ーーFilへの参加を通じて、新たにチャレンジしたいことなどが増えましたか？

**浅野** 出会いの広場自体は学内で知られている企画ですが、運営をしている新入生研修委員会の存在はそれほど広まっていません。そのため、本部学生の過疎化が激しいです。このようなことが続かないためにも、今回Filで発表させていただいたように、学生の方々に私たちのことをもっと知っていただけるよう、発表をする機会を少しでも作っていけたらなと思っています。

## 物事を新しい視点から見れるようになった

ーーFilでは参加者全員がともに学び・学びあうことを大切にしています。グループ内でお感じになった「学びあいの価値」があれば教えてください

**小林** 自分では気づかなかったことを周りの人から学ぶことがあったり、物事を新しい視点から見れるようになりました。

ーーこういった活動を支援したいと思っている教職員やオトナの人にアドバイスやコメントをどうぞ！

**小林** オトナの方々の支援がなければ私たちの活動が成立しないことが沢山あります。現実的な問題点や、私たちだけでは気づけないこと、どうすることもできないところを助けていただき、とても感謝しております。

ーー自分の団体以外で一番「すごい！」と感じた団体は？

**浅野** 日本工業大学Formula Friends of N.I.T.です。活動している内容自体は私たちとは異なりますが、メンバー全員が一つの目標に向け全力で取り組み、反省・改善の繰り返しを行なっていることにとても感動しました。

ーー団体活動がその他の学生生活や研究活動へ役立ったこと、広がりを感じたことはありますか？

**小林** 周りに目を配れるようになったり、主体的に動けるようになりました。

# 日本工業大学
# Formula Friends of N.I.T.

## グループで話し合うことで様々な観点から問題点などを考えることができた

――まずはFil2020を終えて率直な感想をどうぞ！

**戸松** とても貴重な場をいただき、誠にありがとうございました。発表の時は大人数の中で話すのは初めてだったので、とても緊張しました。しかし、他の団体の発表を聞いたりグループで話し合うことで、様々な観点から問題点などを考えることができたのでとても勉強になりました。

――こういった場があると知ってどうして発表しようと思ったのですか？

**戸松** 教授からお話をいただき、様々な団体が参加するとのことだったので、普段関わることのない団体のお話を聞くことによりチームにフィードバックできることがあるのではないかと興味を持ったからです。

――Filの発表の準備をする中で、改てご自身やご自身の活動について感じたこと、気づきなどはありましたか？

**戸松** 自分たちの行なっている活動は、ご支援いただいているスポンサーのみなさまのお力添えと、先輩方が積み上げてきた伝統があるからこそ、今の活動が行えているんだなと改めて感じました。

## 自分たちの熱意と先輩方が積み上げてきた伝統を繋いでいくということを伝えたかった

――Fil当日みなさんが一番伝えたたことはどんなことでしたか？

**戸松** 自分たちの熱意と先輩方が積み上げてきた伝統を繋いでいくといったことを伝えたかったです。課題やチームの問題に対してミーティングを行う時、チームのモットーや伝統を大切にしているからです。

――それは伝わったと思いますか？

**戸松** うまく伝わらなかったと思います。理由は、Fil当日緊張してしまい、発表がうまくいかなかったのであまり手ごたえはありませんでした。

――参加者からもらったメッセージカードの内容はどんなものでしたか？

**戸松** 大会に向けての活動の応援メッセージがほとんどで、とてもうれしく思いました。目標に向けて頑張りたいと思います。

## それぞれの団体に課題や解決方法の考え方があり勉強になった

――他大学の発表を聞いて感じたことはどのようなことですか？

**戸松** 普段関わることのない活動をしている団体がほとんどでしたので、とても良い刺激を受けました。また、それぞれの団体に課題や解決方法の考え方があり勉強になりました。

――Filでは参加者全員がともに学び・学びあうことを大切にしています。グループ内でお感じになった「学びあいの価値」があれば教えてください

**戸松** 団体によって様々な活動を行なっているので、それぞれの団体で抱えている問題について話し合うことにより、色々な解釈や課題解決方法などが出てきたので新たな発見や考え方が見えてくるきっかけになったと思います。

――活動支援金は何に使う予定ですか？

**戸松** 活動支援金は、今後車両の製作費や製作中に出る消耗品などに使わせていただきます。

――自分の団体以外で一番「すごい！」と感じた団体は？

**戸松** 常磐大学ですね。理由は、課題に対してまず自分たちのどこがいけないのかを考え、問題点を見つけ、どのようにしたら問題点を解決できるのかを考えてそれを実行しているというのがとても良く考えていてすごいと感じました。

## 技術力とスケジュールをまとめる力、忍耐力がついた

――団体活動がその他の学生生活や研究活動へ役立ったこと、広がりを感じたことはありますか？

**戸松** あります。例えば、研究では物を設計する時にこの機構で大丈夫なのか、加工できるのかなどを考えながら設計しているので、加工する技術力と、どのように研究を進めていくかなどのスケジュールをまとめる力、忍耐力がついたと思います。

# 東邦大学　理学部生命圏環境科学科
# 竹内　彩乃氏

## 学生の時にしか経験できないことも沢山あるので
## 今この時に感じることを大切に、チャレンジしていってほしい

――Filというイベントがあることをお知りになり、どのように思われましたか？

**竹内** 学生活動の成果発表の場は他でも多くあると思いますが、苦労した部分にフォーカスが当てられ、それが評価されるイベントは大変珍しいと思いました。同時に、そのような苦労を評価してこそ学生の今後のモチベーションにも繋がるのではないかと思い、素晴らしいイベントだと思います。

――その上で学生たちと参加してみよう、と思われた理由は？

**竹内** 東邦Ecolutionは、大学からの資金的支援は受けていますが、活動は学生主体で進めてきました。真面目で、大学の期待に応えようと頑張る学生が多いため、徐々に大学の広報やメディアで取り上げられることも増えてきました。しかし、活動が充実してくるほど、組織は組織運営やプロジェクトのマネジメント面で課題を抱えるようになってきました。一方で、「東邦Ecolutionで学ぶことが沢山あった」と言ってくれる学生も多く、今のこの時期に今回のような発表の場で学生の学びをみなさんと共有したいと思いました。

――Fil全体を通じてお感じになったことは？

**竹内** 大学の教職員が中心となった活動が多いように感じました。ただ、きっかけは大学でも、学生が自主的に活動を始めている団体もあり、大学と学生の距離感や力の入れ具合のバランスを維持しながら、様々な活動が生まれてくると良いと思いました。

――普段、学生を支援されるお立場としてヒントになることはありましたか

**竹内** 大学側の強いサポートがあると学生の負担も減らせるのかなと思いました。なので、東邦Ecolutionの学生教育としての成果をしっかりと大学に伝え、応援してもらえるようにしていくことが教員の役割だと感じました。

――学生が主体的に活動することや、それを教職員が支援することについて何かお考えになったことはありますか？

**竹内** 学生が大切にしている考えをなくさないように守りつつ、彼ら自身が新しい発見をしながら自分たちの考えを発展させていけるようにするためには、どのような支援が必要なのか考えています。教職員や企業の方から面白いアイディアが提示されると、それに流されてしまう学生も少なくないと思うので、流される前に自分たちの考えをしっかりとしたものにしていけるような指導が必要とされているのだと思っています。

――学生たちへのアドバイス・メッセージがあればお願いいたします

**竹内** 学生の時にしか経験できないことも沢山あると思いますので、今この時に感じることを大切に、チャレンジしていっていただけたらと思います。社会人になると最初のうちは良いのですが、そのうち叱ってくれる人、アドバイスをくれる人がどんどん減ってきます。今のうちに大人たちと関わりながら、自分の成長に役立つ経験をしていただけたらと思います。今みなさんが関わられている活動が、未来の新しいチャレンジの基礎となりますので、大変なことも楽しいことも吸収していってください。

# 中部大学　学生サポートセンター事務課
# 辻　孝章氏

## 「失敗を責めない」「失敗しないようにする指導はしない」無責任に聞こえるかもしれないが、失敗して学修することは多い

――Filというイベントがあることをお知りになり、どのように思われましたか？

**辻** 応援したい大学を選出するイベントだと聞いていました。他大学の学生の色々な苦労話や体験を聞ける貴重な機会だと思いました。

――その上で学生たちと参加してみよう、と思われた理由は？

**辻** 本学のコモンズサポーターの活動を知ってもらうのとともに、他大学の活動発表に本学での問題解決になるヒントがあるのではないかと思い参加しました。

――Fil全体を通じてお感じになったとは？

**辻** 参加する学生のみなさんは素晴らしいですね。熱のこもった発表に加え、発表に対する質疑応答する姿が良かった。また、各テーブルでも意見交換が活発に行われ、とても良い時間でした。

――普段、学生を支援されるお立場としてヒントになることはありましたか

**辻** 企業とのコラボは良いですね。企業を訪ねて行くには多くの準備が必要ですし、度胸も必要だと思います。ぜひ本学のコモンズサポーターにもそれぐらいの行動力がほしいと感じました。

――学生が主体的に活動することや、それを教職員が支援することについて何かお考えになったことはありますか？

**辻**「失敗を責めない」「失敗しないようにする指導はしない」。無責任に聞こえるかもしれませんが、失敗して学修することは多いと思っていますし、自分で考え、自分で判断し、自分で行動した結果ですから自ら反省もするし、学修もすると思っています。本学でも、他の活動団体では事務職員が1から10まで指示して、学生はそれに従っているだけで大きな失敗もなく事務職員が満足している団体もあります。これで学生は本当に成長できているのでしょうか？自分で考えて行動することが一番の成長の糧だと思っています。また、失敗した学生を注意して追い込むようなことはしない。なぜ失敗したのか、どうすれば失敗しないのかを考えさせれば、自ら反省し成長してくれると信じています。

――これからご自身として新たにチャレンジしたいと思っていることはありますか？

**辻** 他大学との交流です。他大学と共催でイベントなども開催してみたいですね。学生同士情報交換を行なっていますので、学生企画にサポートするという立場でも良いので実現したいですね。

――学生たちへのアドバイス・メッセージがあればお願いいたします

**辻**「失敗を恐れない！」学生時代の失敗は絶対成長に繋がります。どんどんチャレンジして失敗してください。ただし反省・振り返りは絶対必要です。同じ失敗は繰り返さないことだけは心がけてください。また、ミーティングは絶対必要です。LINEで十分だと良く聞きますが、それではダメです。短い時間で良いので全員集まってミーティングをし、意見交換すれば話は進んでいきますし、問題解決もできると思います。

# 亜細亜大学　経営学部准教授
# 浅野　麗氏

## 支援、協力するさじ加減を見極めつつ、学生個人の人格を尊重できるような関わり方をしたい

――Filというイベントがあることをお知りになり、学生たちと参加してみようと思われた理由は？

**浅野** 4月に行われる学内イベントのリーダーの学生たちにとって、本格的な準備が始まる前に自分たちの活動を知らない人に向けて活動報告する機会が得られれば、そこで改めて自分たちの活動ですべきこと、したいことが見えてくるのではないかと思ったことが参加した理由です。

――Fil全体を通じてお感じになったことは？

**浅野** 他の大学の学生さんたちと、親密なかたちでグループワークする時間が貴重なものでした。発表内容は多岐にわたるもので興味深く、こういった会合を意識して学生たちのチームワークも高まっていくのだろうなと思いました。

――普段、学生を支援されるお立場としてヒントになることはありましたか

**浅野** グループワークの際、教員という立場で関わる時に悩む場面や、学生が何を鬱陶しいと思っているのか、何をありがたいと思っているのかといった繊細なことについてたずねたところ、利害関係があるわけではないので、そのあたりを率直に教えてくれて助かりました。

――学生が主体的に活動することや、それを教職員が支援することについて何かお考えになったことはありますか？

**浅野**「学生の自主的な活動」の幅について悩んではいて、大学という組織の中で動くので制限がかかってしまうのは当然なのですが、学生はもっと自分たちで活動したいと思っている節もあると思いますし、お目付け役にならず、支援、協力するさじ加減を見極めつつ、学生個人の人格を尊重できるような関わり方をしたいと思いました。

――これからご自身として新たにチャレンジしたいと思っていることはありますか？

**浅野** 大学、学部、学生団体が協力してする大規模な行事をそれぞれが納得のいく仕方で進めるために、関わる人を増やす工夫をしたいと思っています。特に新入生向けの行事ですから、その行事に参加した学生が次は協力する側になりたいな、と思えるように運営する学生の魅力を伝えていきたいです。

――学生たちへのアドバイス・メッセージがあればお願いいたします

**浅野** 授業ともサークル活動とも異なる、大きな意味では社会的ともいえる活動に積極的に携わっていることに敬意を表します。新しいこと、未知のことを営む時には、小さなことから大きなことまで様々な困難があると思います。若いみなさんの柔軟さこそ、組織の論理に縛られてものごとをうまく見られていない教員の意識を変えていくと思います。

――Filに今後期待されることなど、メッセージをお願いいたします

**浅野** Filで大切にされていることのうち、「考えた事を出来るだけオープンに話すこと」「それぞれの「違い」を楽しむこと」はなかなか難しいことで、これを可能にしていることに敬意を表します。大学の違いはもとより、学生、教員、事務職員の立場の違い、活動内容の違いを踏まえて、どういった場でどのように活動をするのかを「オープンに」話せる場には助けられた気がします。今後もこのような、打ち解けることもできつつ、緊張した場が維持されることを願います。

# 当日参加者アンケート【報告】

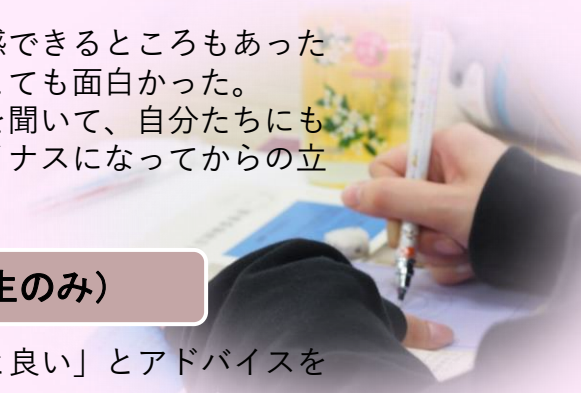
## 満足度について

| | サンプル数 | 満足した | まあまあ満足した | どちらともいえない | あまり満足しなかった | 満足しなかった | 無回答 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 全体 | 58 | 41 | 16 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| | | 70.7 | 27.6 | 0 | 0 | 0 | 1.7 |
| 学生 | 45 | 29 | 16 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | | 64.4 | 35.6 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 社会人 | 13 | 12 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| | | 92.3 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 7.7 |

（上段：人，下段：%）

## 発表を聞いて、気づいたこと・感じたこと（学生のみ）

・同じ悩みをもっている大学が多いなと感じました。それぞれの大学の反省のやり方が違く、自分たちの団体には足りないことが見つかり次へとつながる発表が沢山ありました。
・反省会をするだけでは意味がないことは分かっていたけど、効果的な振り返り方法を探して実践してみるのもいい勉強だなと思った。
・どの団体にも失敗や壁にぶつかったことはない、という団体はなくて、いろいろ考えて行動してきたんだと感じました。
・自分たちに足りない部分を他団体の発表を聞くことによって気づかされたり、問題の改善点を見つけられた。
・他の様々な団体の方々はそれぞれ苦労しており、共感できるところもあったので参考になることも多かった。様々な活動があり、とても面白かった。
・今回発表はしなかったが、他大学の様々な活動内容を聞いて、自分たちにも積極的に取り入れようと感じた。特に、活動が一度マイナスになってからの立て直しの方法が様々だったので参考にしたい。



## グループシェアで気づいたこと・感じたこと（学生のみ）

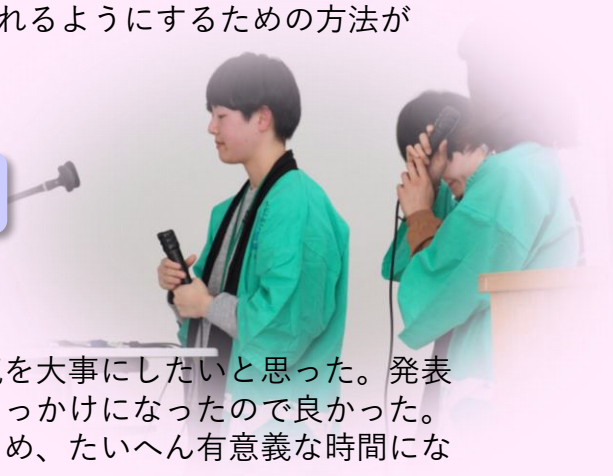
・「なぜこんな企画を取り入れたのかはっきりしてると良い」とアドバイスをグループの方から頂けた。
・普段関わることのない人たちと関わることができて、とても良い経験となりました。全く関わることのない人とディスカッションできたのは楽しかったです。
・主体となる学生や支援する教職員なども、目的を１つに様々な努力を感じた。
・今の環境、状態に満足しないでもっと良くしようという風に考えている周りの方たちに圧倒され、熱を感じた。
・自分たちの活動に興味を持っていただけて嬉しかったです。学生だけでなく、社会人の方の視点から意見をいただけて良かったです。
・同じ団体に対してでも、様々な考え方があることに気づかされた。

## 支援者として大切だと感じたこと（社会人のみ）

・学生の活動をよく見て、自分が今すべきことを適切に判断すること。
・自分たちで考え決めることを促し、関与しすぎないこと。一方で、個人によりその必要な過程を見極めること。
・本当にヘルプが必要になった時に学生が連絡、報告をしやすいよう、いかに信頼関係を築けるか。いかに“問題”に気づく体験をしてもらえるか。
・とにかく振り返り。

## 学生が自ら学ぶために支援者として難しいと感じること（社会人のみ）

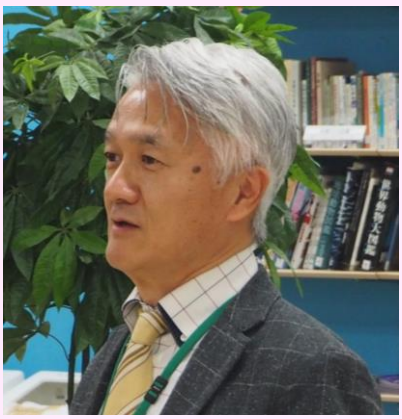
・「学ぶ」ということ自体に興味を持ち、大切にする学生がより多くなるのにはどうしたらよいかということ。
・ついアドバイスしがちであること。それを我慢すること、アドバイスするタイミング。
・学生が自分たちのキャパシティを理解せずやりすぎてしまうことです。モチベーションを維持してもらいつつ、達成感も得られるようにするための方法がないか考えています。
・面倒をみすぎないこと。



## その他印象に残ったこと、気づいたこと

（学生）
・思ったことを素直に言える、そのような雰囲気を大事にしたいと思った。発表するのはやはり緊張したが、自分を見つめ直すきっかけになったので良かった。
・他大学の方と意見を共有する機会がなかったため、たいへん有意義な時間になりました。
・他の団体の方の発表も、意見交換も、とても面白かった。なるほど、そういう手があったか、などと思うところがありとてもためになった。
・前は気にしなかったことが、今ではこういう機会のおかげで気づいたり、改善しようとしている。
・もっと多くの大学の団体の活動が聞けたら良かったと思いました。
・他大学の学生と関わる貴重な機会で、新たな学びにつながったと思う。今後のより良い団体の成長を目指していきたい。
（社会人）
・学生のみなさん、お疲れ様です。みなさんは、スゴイ！！人ばかりです。
・学生主体の団体を支援するにも、まずは職員のサポート力。学生とともに成長していきたいと思います。
・他の団体と会話、意見交換するのは新鮮で良かった。

# Fil2020 開催を終えて



株式会社ラーニングバリュー
代表取締役　安田 仁秀

# チームビルディングを体験する

「ワンチーム」！
ラグビー日本代表がチームスローガンに掲げ、昨年ラグビーワールドカップで大躍進したことは、多くの人の記憶にまだ鮮明に残っているのではないでしょうか？

弊社ラーニングバリューは設立15年目となりますが、
設立以来「チームビルディング」を学校の学びに活かすことを提案してきました。
「チーム」がビルドする。
そのことにどのような意味合いがあるのでしょうか？

個人的に「チームビルディング」の目的は、
チームをビルドして成果を上げることを目標としてはいるものの、
ビルドするプロセスにおいて、
チームのメンバーが学び、成長していくことにあると思っています。

ラグビー日本代表においても、
個々にその成長が積み上げられたからこそ、
目標であるベスト８を達成したのではないでしょうか。

今年のFilではどうだったでしょうか？
各大学の発表を拝見し、参加大学のそれぞれのチームがビルドするプロセスにおいて、
まさしく学生一人ひとりに何らかの深い気づきが生まれ、
その気づきによって成長している姿がとてもよく実感できました。

人間関係で躓きながら、人間関係の質の重要さについて学ぶ。
周囲の力を引き出すことに立ち往生しながら、リーダーシップについて学ぶ。
自分がチームに何ができるのか迷いながら、自分の持ち味について学ぶ。
などなど・・・。

チームビルディングを体験する。
その体験をすることで学びがあり、成長がある！
そんなチームビルディングによる学びや成長を、
今後も弊社ラーニングバリューはたくさん支援してまいります。

Fil2020開催にご協力くださったみなさま、
ご参加いただいたみなさま、
本当にありがとうございました。
みなさまのご協力により、
無事開催をすることができました。

またFilの場でお会いできますように

**発行人**
安田 仁秀
**編集**
安達 雄一・田代 麻衣子

**発行**
株式会社ラーニングバリュー
**本社**
東京都港区浜松町1-25-13浜松町NHビル4F
**お問い合わせ**
03-5776-5960

※無断転用・転載は禁止とさせていただきます

## 『Field of invaluable learning』で大切にしたいこと

・互いの成長を願う姿勢を大切にすること
・互いに感じた事・考えた事を出来るだけオープンに話すこと
・それぞれの「違い」を楽しむこと
・学生も社会人も＜学び合う＞こと